

3 勉強について

1) 勉強の目的

勉強の目的について、「将来、希望する仕事に就くため」「大学進学のため」と回答した者の割合が、4か国とも高い。特に、日本では、「将来、希望する仕事に就くため」が突出して高い。

図3-1は、「勉強が大事だと思うか」の問いに対する4か国の回答の割合を図示している（無回答があるため、合計は100%にならない。以下も同じ）。これをみると、「とてもそう思う」と答えた者の割合が、米国は58.8%に達し、日本は41.7%、中国32.4%、韓国28.7%となっている。「まあそう思う」を合わせると、日米中の肯定率は9割強となっているが、韓国はやや少ない。

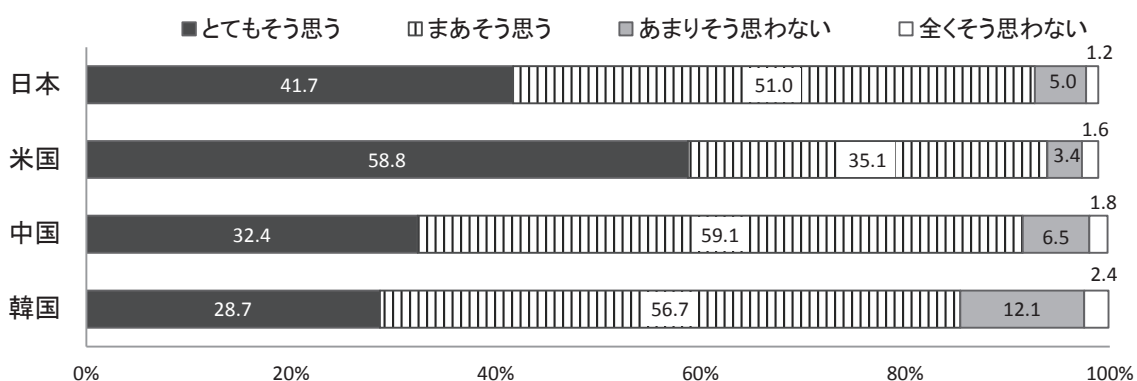


図3-1 勉強が大事だと思うか

勉強の目的については、10項目を挙げ、2つまで選択してもらった。図3-2は日本の回答率の高い順で並べたものである。

日本では、「将来、希望する仕事に就くため」が6割を超え、他の項目を大きく上回っている。また、他の3か国に比べても、際立って高くなっている。その次は「大学進学のため」が5割弱となっている。3位の「社会の役に立つ人間になるため」は26.5%で、他の3か国より高い。一方、「自分の人間性を高めるため」が2割で、ほかの3か国に比べてやや低いほか、「親の期待を叶えるため」「人に尊敬されるため」「先生に好かれるため」といった他人の期待に応えるような項目の回答率も低い。

米国は、「将来、希望する仕事に就くため」と「大学進学のため」の割合がいずれも4割強で、「自分の人間性を高めるため」も、3割弱となっている。また、「その他」の割合が16.6%と多い。その内容を自由記述からみると、「夢を実現するため」「人としての基本を身につけるため」「知識を得るため」「よりよい未来のため」などが挙げられている。

中国は、「将来、希望する仕事に就くため」が4割強で、「大学進学のため」は3割強に止まり、日米韓の3か国に比べて低い。そのほか、「自分の人間性を高めるため」「将来、より多くの収入を得るため」が3割弱を占めている。また、「親の期待を叶えるため」が2割弱、「人に尊敬されるため」が1割弱であり、日米韓に比べて高い。

韓国も、「将来、希望する仕事に就くため」と「大学進学のため」が多く挙げられた。そのほか、「将来、より多くの収入を得るため」が3割強と、日米中の3か国に比べて高い。

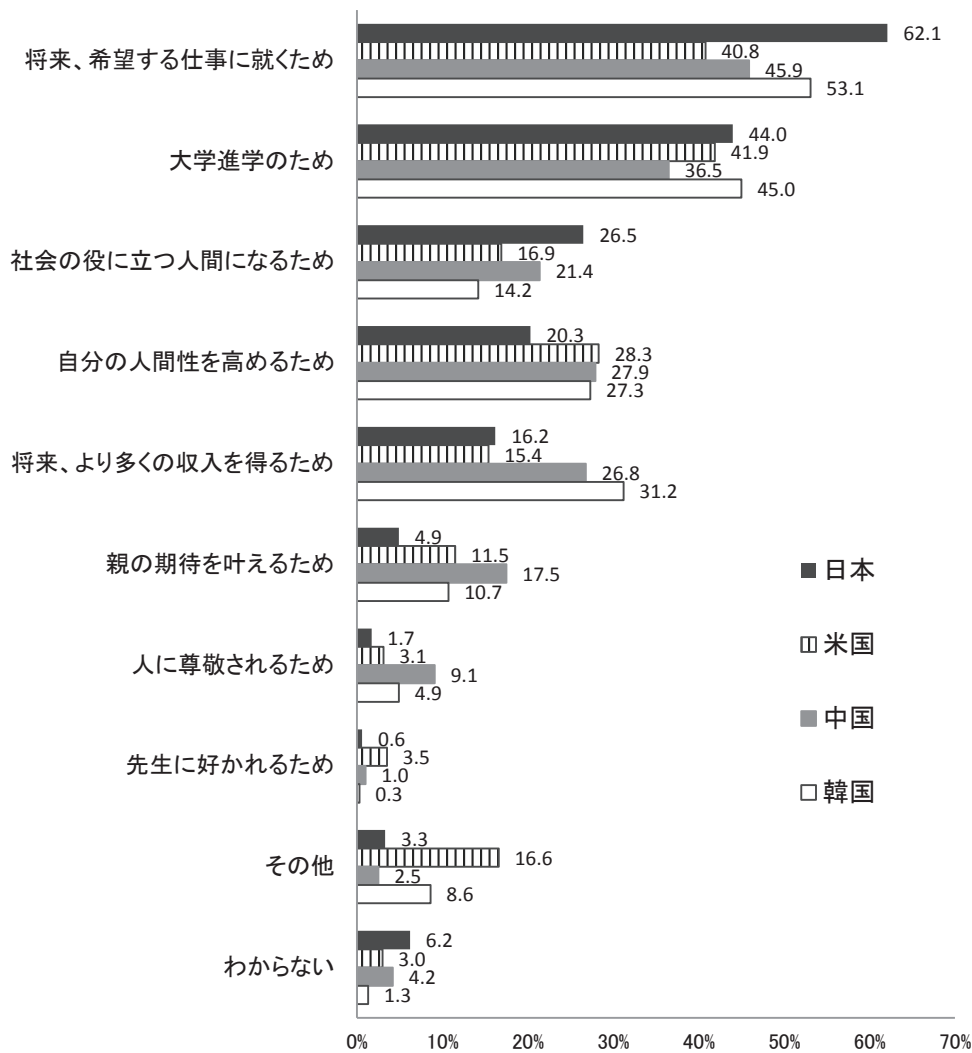


図3-2 勉強の目的(2つまで)

2) 将来、受きたい教育の水準

「四年制大学まで」が、日本と韓国は5割強、米国と中国は4割弱である。また、米国と中国の4割弱の高校生は、修士や博士を目標に定め、高学歴志向を示している。

図3-3は、将来受きたい教育水準について尋ねた結果を示したものである。日本は、「四年制大学まで」という回答が最も多く、5割強となっている。韓国も5割と高い。米国と中国は4割に満たない。一方、「大学院修士まで」と「大学院博士まで」と回答した者の合計は、米国と中国が、4割弱と高く、両国の高学歴志向が伺える。

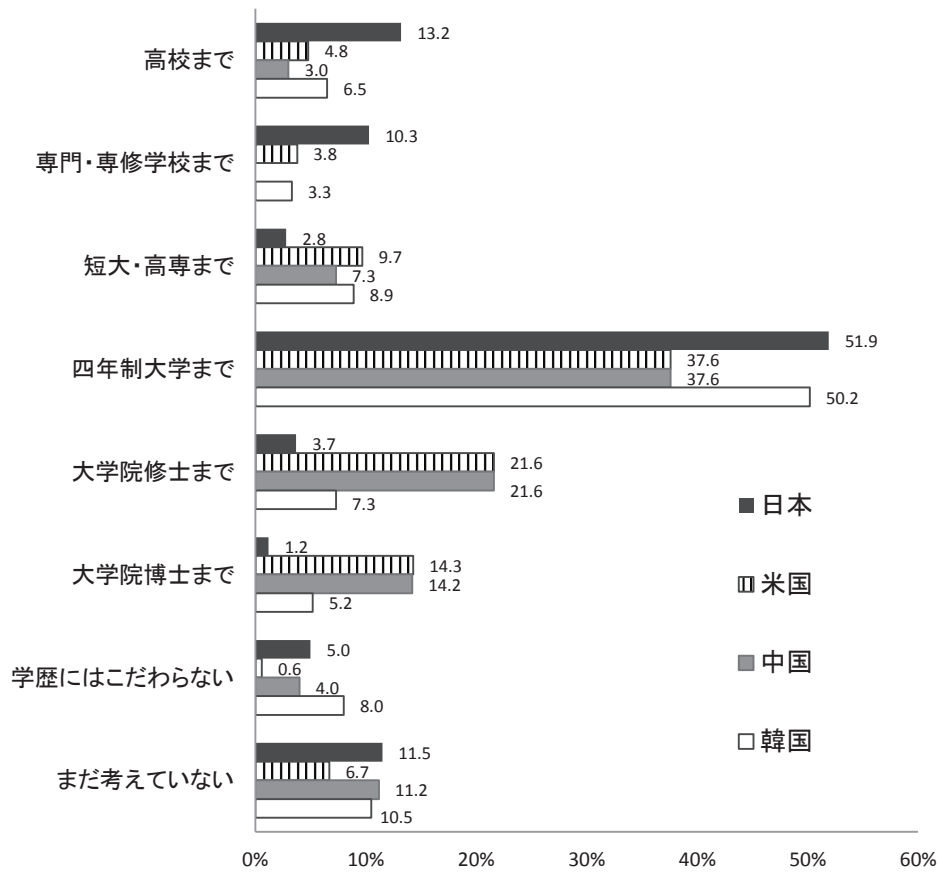


図3-3 将来、どの程度の教育を受けたいか